別紙様式１

令和７年度　指定管理者運営状況点検・評価シート

対象施設名	徳島県立神山森林公園イルローザの森	施設所在地	名西郡神山町阿野字大地459-1
指定管理者名	徳島中央森林組合	指定期間	令和5年4月1日～　令和10年3月31日
施設所管課	林業振興課	【連絡先】	088-621-2458

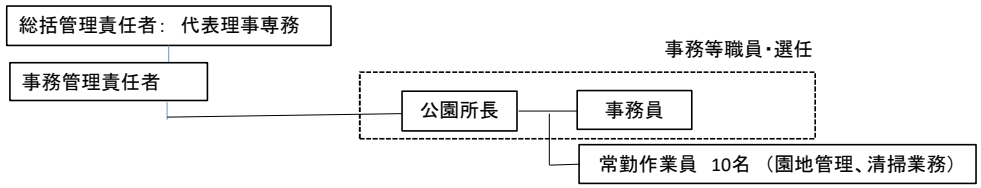
１　施設の概要

設置年月日	平成元年7月29日（平成11年3月25日　東龍王地区を追加）
設置目的	県民に保健休養の場を提供するとともに、森林及び林業に対する県民の理解を深める
施設内容	公園敷地281.13ha　森林学習館、レストハウス、炊飯所など計38施設
利用料金等	無料
開館日・休館日等	12月28日から1月4日まで

２　指定管理者の業務

指定管理者の業務内容	・徳島県立神山森林公園の施設の運営業務（受付案内業務、イベントの実施、自主事業の実施、利用拡大のための啓発活動） ・施設・物品等の維持管理業務（清掃業務、修繕業務、設備運転管理等業務、展示物及び遊具施設等常駐メンテナンス業務、警備業務、芝生管理、樹木管理、園地・林地管理、遊歩道、管理道及び林道の管理） ・施設の利用の許可に関する業務（森林学習館、炊飯施設、ゲートボール場等）

３　施設の管理体制

管理体制	事務等職員　2　名　　作業員　10　名　　計　12　名 

４　施設の利用状況

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	計
利用者数（人）	令和７年度	60,057	18,120	6,105	4,307	3,814	6,981	9,037	16,011	6,489	4,503	4,797	24,764	164,985
	令和６年度	47,121	16,857	6,462	4,401	3,948	7,950	9,468	16,077	7,041	4,515	5,316	24,996	154,152
	令和５年度	41,672	16,803	6,303	4,383	4,359	8,088	9,162	15,219	6,387	4,206	4,837	33,726	155,145

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	計
月別利用料金収入（千円）	令和７年度													
	令和６年度	該当無し												
	令和５年度													

							計
施設毎利用料金収入（千円）	令和７年度						
	令和６年度	該当無し					
	令和５年度						

５　収支の状況

（単位：千円）

項　目			令和７年度	令和６年度（前年度）	令和５年度（前々年度）
収入	指定管理料		74,668	72,833	72,600
	事業収入		156	66	96
	計		74,824	72,899	72,696
支出	固定費	人件費（常勤職員）	8,184	9,762	8,500
		光熱水費	3,610	3,507	3,585
		事務所運営費	2,443	2,500	2,709
		施設管理手数料	503	570	645
	運営費		1,084	1,653	2,068
	維持管理費	清掃費	7,424	7,710	7,801
		警備費	376	238	356
		園地管理費	42,600	45,987	42,091
		修繕費	314	2,561	2,263
	消費税		2,429	1,339	2,748
	計		68,967	75,827	72,766
収支			5,857	-2,928	-70

※項目は、事業報告書等に合わせて、適宜、変更すること。

※計画額や予算額との乖離が大きいもの、費目の内訳が分かりにくいもの等、詳細な説明が必要な場合には、別途、説明の追加や参考資料の添付など確認可能な形とすること。

６　コスト削減・サービス向上に関する取組状況

コスト削減の取組	・園内の遊具や柵など施設の補修にあたっては、可能な限り材料の現場調達を行い、職員が実施することにより、購入や外部発注にかかる経費の削減を図った。 ・施設内の日々の見回りによるチェックを行い、細かな修繕を行うことで大きな破損につながらないように心がけた。 ・省エネルギー、省資源化による光熱費削減への取り組みとして、エアコンの使用に当たっては適切な温度調節、各所の適宜消灯を行った。 ・コピー、印刷用紙の節約やミスコピーの再利用による事務費の削減を行った。 ・消耗品などの都度買いを見直し年間計画に基づき一括購入することでコスト削減を行った。
サービス向上の取組	・年間を通し多彩な事業を開催し、年間カレンダーを作成し、県内各所で周知を図っており、ニーズに応じ、参加者が多いイベントについては、回数を増やすようにした。 ・各種教室にの参加者には、記念品を贈呈する「イベントポイント制度」を導入し、利用促進とリピーターの確保を図った。 ・園内どんぐりマップを作成し、ドングリ、松ぼっくり等を拾いたい等の要望に応えて、現場を案内した。また、桜の時期には、開花情報をHPに掲載し、見頃を紹介した。 ・各種イベント時には、来園者向けに案内所テントを出して見頃を案内した。 ・スマートフォンで樹木が検索できるQRコード付き樹木プレートを増設した。 ・虫よけ剤を無料で提供するとともに、虫媒介感染症のリスクについての啓発を行う虫ケアステーションを設置した。

７　自主事業の取組状況

自主事業取組状況	・4月の桜まつり、11月の秋まつりでは、お花見や紅葉狩りと食イベントを組み合わせ、神山森林公園を核とした地域活性化のイベントとして大変賑わった。 ・5月の緑の感謝祭では常緑樹の生垣迷路を利用したイベント「緑の大迷宮」を開催し、子供たちに喜んでいただいた。 ・4月と11月には、動物ふれあい教室を実施し、命の大切さを学ぶイベントをおこなった。 ・10月に徳島木のおもちゃ美術館や山のおもちゃ美術館と「第二回木のおもちゃまつり」を開催し、木のおもちゃで遊べるコーナーを設置したり、木工クラフト教室の開催、キッチンカーの出店をし多くの利用者で賑わった。

８　管理運営業務に係る点検・評価

項　　目	評　価	点　検　結　果
①利用者ニーズの把握・分析と利用促進 ・利用者ニーズの把握 ・利用者ニーズへの対応 ・施設の利用促進	A	・職員が１日最低３人の来園者から意見や要望を聴取する「１日３人ふれあい運動」及びイベント時のアンケートの実施により、利用者ニーズの把握に努め、可能な限りイベント等に反映させた。 ・イベントポイント制度の導入によりリピーターの確保に努めた。 ・リニューアルしたＨＰに、イベント情報や年間カレンダーを掲載し、利用促進に努めた。 ・インスタグラムで園内の日々の風景、桜や花の見頃の写真をアップロードし、様々な情報発信を行った。
②自主事業 ・計画した自主事業の実施	S	・地元団体等と連携を図りながら、さくら祭り、緑の感謝祭、秋まつりのイベントを開催している。 生垣迷路を使った「緑の大迷宮」、マルシェの出店等多くの利用者で賑わった。 ・計画書に基づいた自主事業を実施しており、公園スタッフで運用することでコスト削減を図った。 ・また「第二回木のおもちゃまつり」を開催し、木育広場や森林や環境の大切さを普及した。
③適正な維持管理 ・施設の保守管理・修繕 ・年間作業計画に基づく適正な維持管理 ・県備品等の適正な管理	A	・園内の施設については、直営により速やかに、かつ細やかな修繕が行われており、少ないコストで多くの箇所の修繕を実施した。 ・園地管理については、樹木・草花・芝生の手入れが行き届き、来園者からの好評な声が多数寄せられた。 ・課題として、イノシシ・シカ被害の効果的対策が望まれる。 ・一部遊具や双眼鏡など、利用できない設備についてはしっかりと利用者への明示と、担当課への報告が行われた。
④収支計画 ・収支計画の達成状況 ・コスト削減の状況 ・外部委託の状況	B	・収支計画の達成状況について、退職により人件費の支出が計画より大幅に減った。日常の維持管理等の質を低下させることなく運営できたが、必要な人員確保と育成を計画的に進めることで、さらなる管理運営体制の強化と安定的かつ質の高いサービス提供への改善が見込まれる。 ・修繕等を直営で行うことで、コスト削減を図った。 ・適切なエアコンの管理やＬＥＤ電球の使用、節電、節水などにより、費用の抑制を図った。
⑤管理運営体制等 ・管理運営業務計画書 ・職員の配置、研修計画 ・諸規程の整備 ・利用料金の徴収、減免 ・モニタリングの実施状況	A	・保安業務や浄化槽の管理、警備など必要な外部委託は計画どおり実施した。 ・県条例に基づく文書管理規程も新たに整備した。 ・「１日３人ふれあい運動」において、来園者から聴取した内容も反映したセルフモニタリングを行っており、職員の情報共有により、随時改善・改良がされた。
⑥職員体制 ・職員の労働条件	A	・事業計画書の職員体制に示した労働条件を満たす勤務ができており、適正な能力及び実績を評価した、人員配置を行った。
⑦地域への貢献 ・地元雇用の状況 ・地元企業への業務委託	A	・職員の多くは地元雇用である。 ・年間を通じて開催されている教室の講師として地元企業に依頼をして、連携協力を図っており、あわせて地元企業のPRをした。 ・業務委託についても、県内企業を中心に実施した。
⑧地域との連携 ・地元団体等との連携	A	・自主事業イベントの際には、地元団体等と連携し、地元特産品や農産物を販売や、阿波踊りを踊ってもらうなど積極的に連携を図った。 ・地区の学校行事や課外授業などに使用された。
⑨安全管理 ・安全管理体制、事故防止体制 ・災害等発生時の対応体制 ・マニュアルの整備、職員教育 ・個人情報保護への適正対応	A	・施設を定期的に巡回・点検し、早急に修理を行った。 ・台風等の発生時には、状況確認や危険箇所への立入禁止等の対応を早急に行っており、状況報告書も提出することとした。 ・防災マニュアルの職員への徹底を図るとともに、月会議時には、安全確認や注意事項の共有を図った。 ・事故発生時には関係各所への報告、連絡など適正な対応を行った。

項　　目	評　価	点　検　結　果
⑩環境への配慮 ・環境対策の状況	S	・チェンソーオイルは生分解性で環境に優しい成分のものを使用し、環境への負荷を抑制した。 ・園地管理などに使う自動車など、アイドリングストップを徹底した。 ・園内の管理に利用するブロアーはバッテリーを使用し、ＣＯ２排出量を抑えた。 ・園内の落ち葉を集め、植樹の際の堆肥となるようリサイクルをした。
⑪その他 ・関係法令の遵守状況 ・情報公開請求への対応体制	A	・関係法令に基づき、適正に実施した。 ・情報公開規定を整備した。 ・定期的に職員会議を行い、対応体制を確認した。
総合評価	A	・利用者ニーズの把握により、要望に対する対応を積極的に図り、サービス向上につながった。環境への配慮や安全管理等も整っており、適正な運営管理を行った。

〈評価指標〉　Ｓ：協定書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われている。
Ａ：概ね協定書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われている。
Ｂ：協定書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫や努力が求められる。
Ｃ：管理運営が適正に行われたとは認められず、改善を要する。

※　項目については、事業計画書と整合性をはかる。

９　その他（今後の課題及び対応等）

○神山森林公園の魅力発信や広いフィールドを利用した新たなイベントを開催することにより、
来園者を増やす取り組みが期待される。
具体的には、
・間伐体験など森林林業の普及啓発につながるイベントを開催する。
・人気イベントの「木のおもちゃまつり」や「緑の大間迷宮」など、継続して開催する。
ただし、これらのイベントは参加費を徴収しておらず、収入がない。イベント実施に必要な経費を確保できるよう、
不人気イベントの廃止や、イベント広告におけるインターネット･ＳＮＳの活用等により、コスト削減に努める。
・インターネット、新聞、パンフレットを活用した県内外への積極的なＰＲを続ける。
・神山森林公園HPやSNSにより、公園情報の充実化とイベント情報の発信を行う。
特に、「イベントポイント制度」や「どんぐりマップ」、「桜開花情報」、「紅葉見頃情報」などについて。
・徳島木のおもちゃ美術館や山のおもちゃ美術館と連携し、木育広場の利用促進等を図る。
○デジタルアンケート運用開始予定。（QRコード読み込み式でアンケート回答）
○収支実績について、人件費の支出が計画よりも大幅に減少している。
令和７年度は現場作業員、職員ともに退職があり、計画の人員よりも少ない人数での運営になった。
日常の維持管理等の質を低下させることなく運営できたが、必要な人員確保と育成を計画的に進めることで、
さらなる管理運営体制の強化と安定的かつ質の高いサービス提供への改善が見込まれる。
○今後見込まれる大きな支出として、新しい木のおもちゃの増設や施設の修繕をする予定